

トリチウムの取扱いに関する 選択肢について

平成26年2月27日

トリチウム水タスクフォース事務局

1. タスクフォースにおける選択肢に関する主な意見

- 分離するということは、濃縮された水と薄くなった水ができるという事だと理解した。薄くなった水について、環境への放出がどうあるべきかを議論しないで、分離・濃縮の議論をしても意味がないのではないか。(第2回)
- 薄めて放出する、ということは方法論としてはありえるのか。(第2回)
- 1つの方策で万全という考えではなく、複数の方策を組み合わせることで影響を最小化する方法があるのではないか。(第3回)

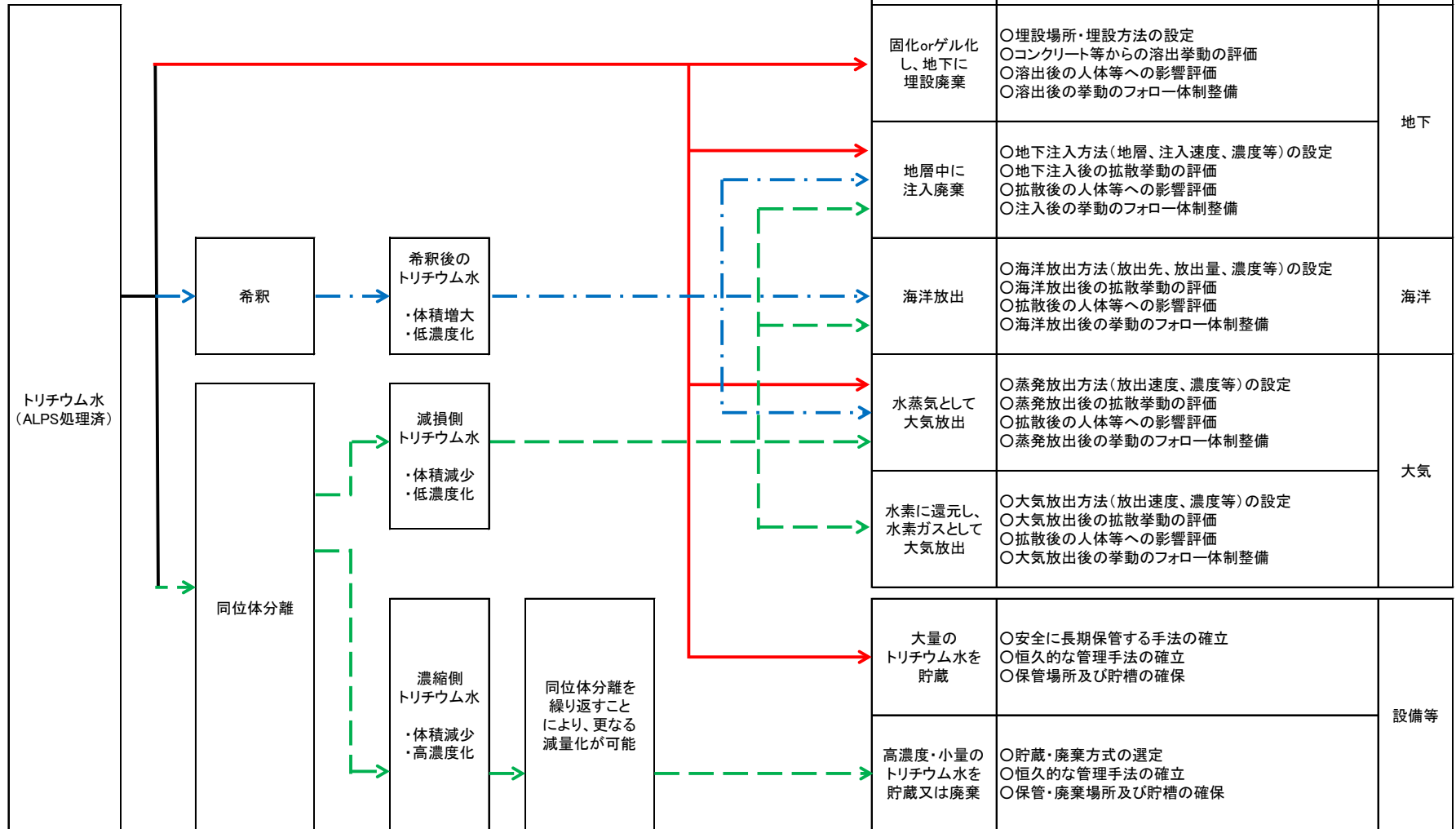
2. これまでの議論を踏まえた論点整理

- 選択肢は、最終形を見据えたものであることが必要。この観点から「保管」、「分離」は、「処分(埋設、放出等)」と合わせて考える必要があるのではないか？
 - ※「保管」単独の選択肢は、将来的な新技術の適用が前提となるが、選択肢として成立するか？
 - ※「分離」は、どのような場合に行うべきか？
(「処分」が容易になる場合、技術開発時間やコストを考慮しても総合的メリットが大きい場合 など)
- 福島第一原発の廃炉が30～40年の作業であることを考えると、選択肢も40年程度までの間に最終形に達するものとすべきではないか？

最終形を考慮した選択肢と主な課題等(案)

<前処理>

<選択肢>



総合評価に向けて、検討すべき事項

○選択肢の妥当性

- ・事務局より提示した選択肢で不足等はないか？
- ・類似の選択肢については、絞り込みが必要か？
- ・処分場所による違いはあるか？違いがある場合、選択肢にどう反映させるか？

○評価の視点

- ・これまでの議論で不足する視点はないか？
環境・水産物・人体への影響・リスク、処理期間、コスト、
技術的可能性、法制度上の困難さ、その他考えられる課題

○評価に当たっての指標・試算値の設定のあり方

- ・コストや工期の評価に当たり、どのような指標・試算値を設定するか？
- ・選択肢の相対比較ができれば十分か？
(何らかの指標・試算値が設定できないか？)

○海外有識者から確認すべき事項(次回以降、招聘予定)

- ・選択肢の総合評価までのプロセス(考え方、指標・試算値の設定など)
- ・総合評価後の実際の取り組みに至るまでのプロセス
- ・その他